

# 大ニ日中

版 コ ス シ

道新 184 三代家之展-現況生天-札幌 142頁 (本編トプへ追加)

高知新 279 本編同 No. 4 4 4 37.7.20

新愛媛 107

甲口新 120 夏にゆく-長安平 121頁 (本編トプへ追加)

## 一、明けゆく徳之島

鹿兒島

鹿兒島から飛行機で二時間半、南の海に点在するトカラ群島の一つに徳之島があります。周囲六十四キロ、サンゴ礁にふちどられたこの島は、うっそうとソテツの樹海におおわれています。人口は五万一千人、どここの屋敷にも季節風にそなえて汐止の石垣が築かれ素朴なカヤブキが象徴するよう島の人々は遠い祖先の昔からひなびた生活をおくってきました。離島にしては珍らしく水が豊富であることから織物の染色がはじめられ、今日の「大島つむぎ」を見ることになったのです。そればかりか、豊かな水資源は工業用水として、砂糖工場やバインナップル工場の進出を誘いました。それに伴って、島では本年度四億円を計上、約七百ヘクタールの開発を進めています。このように、情緒あふれる流球文化と豊かな資源に恵まれた徳之島は、今や「価値ある島」として脚光を浴びようとしています。

## 一、分水嶺を越えて

日本列島横断学術調査

日本海にのぞむ庄川の河口を起点として川をさかのぼり長良川を経て伊勢湾にいたる日本列島横断学術調査隊は、七月十一日庄川の河口を出発。

庄川・白川のけわしい急流をボートでさかのぼり、中部山岳地帯の分水嶺を越えて、三百キロのルートを走破しました。従来、わが国の国土開発が表日本のタテの線であられてきたのにたいし、横断という新しい次元をうちたてる画期的な試みとして注目されています。

アイモ風土記

## 一、織物に生きる町

一ノ宮・尾西

七月十四日から愛知県一ノ宮市の七夕祭りが始まりました。駅前から本通りにかけて五千万円をかけたという飾りつけが目を見舞い集る人も三日間で百万をこえる盛況ぶりです。この祭りは「けん牛と織女」の再会にあやかうと七年前から始められた七夕祭りのニューフェイスです。それというのも一ノ宮は昔から織物の町として知られ現在まで日本一の生産を続けてきましたが最近の不況でやや苦しい立場におかれているからです。織維産業は多数の零細企業をかかえ大きな悩みとなってきたがここは殊に高級な柄ものの産地ではとんどが織物機械を一ノ二台しかもたぬ家内工業。その上最近外部の大企業やさらに合織・化織の迫いうちをうけてのびなやんでいるのです。空前の眼みをみせた今年七夕祭りにも悩める一ノ宮の現実をうかがうことができるようです。

201頁

291頁

144頁

262頁